福井の文化をきり拓く Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか〜と
2013.3
Vol.40

「FUKKart（ふっか〜と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

EVENT REPORT イベントレポート ―― 2012年度後半の主な事業を振り返ります

オペラシアターこんにゃく座
「ねこのくにのおきゃくさま」

2012年12月21日(金)
福井市文化会館(ホール)

この事業は市民団体「子どもいきいきプロジェクト」とパートナーシップを組んで実施しました。プロジェクト代表の今村充美さんに話を聞きました。

――まず、「子どもいきいきプロジェクト」とは？

「ふくい子ども劇場」で親子でいろんな活動を楽しんだメンバーが、その経験をもとに、みんなで遊ぶ楽しさを伝えたいという思いで2007年に設立した任意団体です。子どもの豊かで健全な育成を目的に、「ほんもの」にこだわりながら、子どもとさまざまな分野の芸術家がじっくり出会う「ワークショップ」や、素晴らしい音楽や劇に出会う「鑑賞」などの企画・運営をしています。

応援隊「プーサ」募集

「この公演に『いいね！』」の人を募集しました。登録した方には、プーサ証とキーホルダーをプレゼント。メールマガジンで事前イベントなどのお知らせをしました。

「ねこのくにのおもちゃばこ」ワークショップ

ねこのくにのいたずら子猫はどんなおもちゃで遊ぶかな？7種類の手作りおもちゃをつくりました。

◀回転ねこ

――今回この事業を企画したわけは？

いま子育て真っ最中の大人たち、そして幼い子どもたちに、生(なま)の舞台を見てほしかったのです。それはとても楽しく、親子のコミュニケーションにもつながる本当に素敵な体験です。親子で一緒に観る楽しみは子どもが小さいこの時期にしか味わえません。残念なことに、福井では、ここ数年の間に、子どもが良質の舞台芸術に触れる機会がとても少なくなってきています。良い作品は幼い子どもでもちゃんと観られるし、大人も一緒に観て楽しい。「ねこのくにのおきゃくさま」は、まさに私たちの思いにぴったりの作品でした。私たち、こんなに楽しいお芝居を見つけちゃったの、と福井のみんなに言いたくて言いたくてたまらなくなって、取り組むことに決めました。お芝居を観なくても生きていけるし子どもはちゃんと育つ。でも一緒に観て楽しんだほうが子育てずっと楽しいでしょ。みんなで一緒に楽しんじゃいましょ、ってね。

――実際に取り組んでみてどうでしたか？

なかなか大変でした。苦労したのは、会議をするにもメンバーの時間がなかなか合わせられず、話し合いが不足しがちだったことです。また、当日までにいろいろこんな準備もしておきたい、あれも用意したい、これもできたらいいなあ…アイデアはいっぱい、思いもいっぱいあって…。いろんな方に手伝っていただいたりしましたが、とてもとても全部はできなくって、至らない点がいろいろあったと思います。

▲踊りねこチーム

「みんなでつくろう、ねこのくに」ワークショップ

お料理ねこ、美術ねこ、音楽ねこ、踊りねこ、の4つのチームに分かれて「ねこのくに」をつくりました。

――当日は多くのお客様に足を運んでいただくことができました。

はい。応援隊「プーサ」募集から６ヵ月、プーサも1,000人以上に広がりました。当日も小さい子どもから学生やお年寄りまで750人を超える人たちと一緒に「ねこのくにのおきゃくさま」を観ることができました。文化会館がいっぱいになってとてもうれしかったです。何より、みんながこの日をとても楽しみにしていてくださっていたその気持ちが当日の会場いっぱいに広がって、誰もがにこにこと和やかで楽しい空間になったことがとてもうれしかったです。「今年のクリスマスは心に残るプレゼントを！」という私たちの思いが実現できました。本当にありがとうございました。

やり終えて、やはり１年に１回くらいは、子どもたちがこういう舞台を鑑賞することができる福井であってほしいなと、より強く思っています。舞台を見つめる子どもたちの真剣な顔、歌を口ずさむ楽しそうな顔…、子どもがいきいきと輝く瞬間に、大人も一緒に立ち会えてうれしくなる。そんな、みんなが幸せな時間をこれからもひとつずつ積み重ねていきたいと思っています。次の企画も楽しみにしていてください！

みんなを出迎えるカラフルオブジェ。黒ねこが、いろんなところにのっているんですよ。

ねこのくにの神殿。みんな王様の椅子にすわって記念撮影していました。

ロビーに楽しいねこのくにが出現。

ねこに変身コーナー。ひげを書いてもらうときは、みんな少し緊張気味です。

子どもたちのアイデアでできた「プーサ弁当」の販売もありました。開演前にみんなでいただきま～す！

役者さんたちのお見送りで、最後まで楽しい時間でした。

県内では鑑賞機会の少ない演劇作品の上演、特に子どもたちが楽しめる作品を取り上げ、子どもたちに芸術文化への興味・関心を高めてもらいたいという目的が一致し、今回、子どもいきいきプロジェクトとの協働が実現しました。事前から当日に至るまで、プロジェクトの人たちの熱心な運営姿勢（写真参照）にとても刺激されました。今回の取り組みは、市民団体による企画運営をフォーラムのもつマネジメントノウハウで支援するという、協働のモデルケースのひとつとなり得たのではないかと思います。

寄稿

演劇は子どもにとってどういう価値があるのか…子ども達には物語が必要

福井大学大学院教授　松木健一

教育の目的は、人格の完成と社会の形成者の育成です。この両方にとって「物語る」という認識方法が極めて重要な役割を果たしています。自分が自分であるという認識（アイデンティティ）の形成は、自分に向かって自分の人生の物語を語れるようになると成立しますし、また、社会規範の習得はそこに生きる人物の物語として理解されるからです。

子どもたちは演劇を鑑賞する中で、多くの物語を体験します。登場人物になりきることで、社会のルールを身に着け、自分の生き方を形作っていくのです。子どもたちには上質な物語が必要です。また、それを提供できる社会でありたいものです。

FUKKART 舞台の裏から 9 ARTIST ESSAY

『音楽の力』

フルート奏者　田賀優及子

音による時間芸術である「音楽」。
目に見えない形のない芸術がなぜ人の心を魅了し、深い感動を与えるのか？
その答えがぼんやりと見え始めたのは最近である。
私は普段いろいろな所へ演奏に行かせていただいている。
レディスクリニック・総合病院・保育施設・パーティ…など多くの機会をいただき、ひとりでも多くの方に音楽を届けたいという想いで活動を行っている。
先日、病院で誰もが知る名曲を演奏したときの事。演奏が終わると患者様をはじめ病院のスタッフさんまでも号泣していた。
自分の演奏で誰かが泣く―という初めての体験だった。
その時に“昔の楽しかったこと、良き思い出、いろんな事を思い出して感動しました。ありがとう。”という言葉をいただいた。
そしてその体験で「他人（ひと）の想いに入る」その事こそが、人を感動させる『音楽の力』なのだ、と学ぶことができた。
目に見えない「音楽」を表現していく道のりはとてつもなく長く、時には挫折しそうにもなり思い悩む事もあるだろう。
けれど私は自分ができる形で音楽の素晴らしさを伝え続ける演奏家でありたいと強く想う。

ふくい少年少女 音楽フェスティバル2012

2012年11月11日(日)
福井市文化会館(ホール)

舞台は、専門家や何か特別な人のためだけのものではありません。県内には学校単位の合唱団や民間の合唱団体、任意で音楽活動をしているサークルや少人数のグループなどが多数あります。大きな舞台に立つ機会の少ない子どもたちや、発表の場をなかなか持つことの出来ない団体にその機会を提供することもわたしたちの大切な役割では？もっと多くの人にステージに立つ機会をつくってあげたい！――そのような思いでこの企画は始まりました。

仁愛女子短期大学　子どものための音楽教室
舞台いっぱいに広がる子供たちの姿に、一気に会場が温まります。

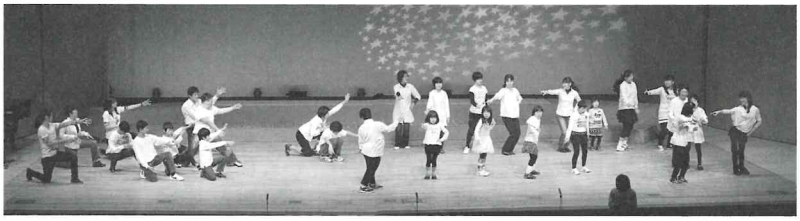
ゴスペルクワイヤー　KGCM-FUKUI KIDS
最年少は2歳！最年長は12歳。得意気に歌う姿に笑顔ほころびました。

ペチカ・SETSUの会　アンサンブル
実力派の調べが会場を魅了しました。

福井市河合小学校　ミュージッククラブ
メンバー唯一の男の子がピアノを弾くという場面も見所でした。

ゲストステージ
男声合唱団ゴールデンエイジふくい
平均年齢72歳！壮大な男声合唱はさすが圧巻！

全体合唱
「わたしのまち　ときめきのまち」
福井市教育長（元は音楽の先生）を指揮者に招き、会場全体で合唱しました。



「みんなで舞台に立とう」を広げる会
障がいの有無に関わらず、みんなで舞台に立とう。彼らの表情がステージを眩く照らします。

出演者の声

- 日頃教室でやっているわらべうたを外で発表するのは初めての経験でした。練習を重ねる毎にみんなの気持ちが高まっていき、それなりの苦労もありましたがとても充実感に満ちたものとなりました。
- このフェスティバルは、スタッフの皆さんの熱い気持ちとサポートなしでは実現しなかったと思います。心からお礼申し上げます！
- 違う団体と一緒に発表する機会をいただき、子どもたちが表現者として成長していることを実感させていただきました。
- いろんな団体の発表を鑑賞することも少ないので良かったです。貴重な機会をありがとうございました。
- とても楽しく参加しました。いろいろな歌やパフォーマンスがあり、耳だけでなく目でも楽しむことができました。また参加したいと思いました。

企画担当者は語る

担当　久保田裕美

●めざせ、みんなで創る音楽祭

当フォーラムならではの音楽祭をプロデュースしたい！と、様々なジャンルの音楽活動団体にアプローチしました。みんなで創ること、つまり「交流」に重きをおき、出演団体やスタッフとの打ち合わせを重ねました。様々な団体が関わるので、打合せにもリハーサルにも、細かなスケジューリングが必要でした。出演者の要望にできるだけ応えたいと、何度もなんども進行表やシーン図を作り直し、技術スタッフと打合せをしました。頭を悩ませることもありましたが、いろいろな現場の声を聞くことができとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

●評価するのではなく、認め合えること

様々なジャンルの団体が一堂に会することで、お互いの取り組みを知り、理解し、交流をもてたのではないかと思います。出演団体の代表の方から「上手い下手で評価するのではなく、認め合えることが素晴らしいんだ」という声を頂戴しました。本当にその通りですね。どんなに上手に歌っても（パフォーマンスできても）人を感動させるということはまた別物なのだと、この事業を通して感じました。綺麗な歌声やメロディーはもちろんですが、何より、その一生懸命取り組んでいる様々な表情やひた向きな姿にこそ、観ている者は心動かされるのだと思いました。告知の方法や集客など課題はありますが、人と人が音楽を通じてつながり、向上し合える音楽祭として発展させていきたいと思います。

まちげき 2012

2012年9月21日(金)～23日(日)
福井市中心市街地エリア一帯

2年間のまちげきを振り返る

まちげきプロジェクト委員　前田　耕一（副理事長）

会場のひとつ
JR 福井駅東口新幹線高架下

「まちげき」は、福井芸術・文化フォーラムが福井の中心市街地の店舗やフリースペース、電車の中や屋外等を使って音楽、芝居、ダンスなどの様々なパフォーマンスを繰り広げる事業です。一昨年と昨年の９月に行って様々な評価をいただいていますが、見えてきた課題と今後の展望（希望）をまとめたいと思います。

まず２年間で行ったパフォーマンスの内容は、落語、音楽、ダンス、和太鼓、芝居、人形劇、パントマイム、クラウンショー、マジック、糸操りや、お面作り、遊び、糸操りなどのワークショップと、実にバラエティに富んでいます。「まちげき」は、街なかを前記のような舞台芸術で彩り魅力的な街にしていこうというのが主旨です。我ながら面白い企画であると自負しているところですが、大量のチラシの配布や広報での宣伝にもかかわらず市民に充分に浸透しているとは言い難い現実があります。

まずひとつは、お客さんの入りです。無料の企画にはそれなりのお客さんが集まりますが、有料の企画はいずれも厳しい入りでした。「まちげき」が、中心市街地で行われている賑わい創出のための他の様々な企画と同列に見えてしまうのかもしれません。駅周辺で行われている企画の「無料が当たり前」を打破できていません。

もうひとつは、公演場所の認知です。中心市街地の駅前から西武に至る道筋には普段からそれなりの人が歩いていて皆知っていますが、一歩路地に入るとパタッと人波が消えてしまい、そこにある公演場所はほとんどの人が知らないという現実がありました。流れてくるお客さんを呼び込むのにも相当の苦労をしなければなりませんでした。しかしこれは私たちの努力だけではどうにもならないものがあります。商店街の方々の普段の努力を切に望むものです。

さらに、気軽に舞台芸術を楽しんでもらおうという企画であるが故に、芸術性の高いものであるという認知がされていないことです。もちろんそういう宣伝が足りないこともあります。舞台芸術を街なかでやるお祭りであることをもっと明確に打ち出す必要があります。

以上のような課題がありますが最も大きな課題は、資金とスタッフが十分に足りないと言うことです。前者を克服するために今までは補助金の獲得をしてきました。３年目に当たる次年度は、補助金の獲得も含め資金調達はとても難しい課題です。後者のスタッフ不足は、これまでも多くのボランティアの方々に手伝っていただいていますが、フォーラム単独で行う事業としては集客や舞台の段取り、演者さんの接待など細かな作業をこなしていくには荷が重い面があります。この資金不足とスタッフ不足を解消するために「まちげき」の主旨を理解して一緒に取り組んでいただけるパートナーとなる団体を探したいと思います。同じような思いで取り組んでいただけるところがきっとあると、各方面に働きかけているところです。どういう形になるか未定ですが、「まちげき」は継続したい事業のひとつです。

編　集　後　記

■チケットの売れ具合は景気に大きく左右されます。その意味で我々は景気の良し悪しをしっかり体感しております。今はまだまだ…。(K･M)

■高校卒業 50 年目で、３月初めには全員が現役生の卒業式に招待されており、近くのホテルで開催の周年パーティではスピーカー（福井と大阪の関連を用意）の指名も受けている。同期生には、山頭火のひとり芝居の国内外公演等々で活躍の林田鉄君 (四方館、林田創作舞踊研究所、座・９条）がおり、当会の事務局にプレゼンしてもらったこともある。彼のこの面でも恩師にあたる、故・神澤和夫先生（大学教授に転じられ、ルドルフ・ラバンの翻訳書及び２冊の舞踏関係本を公刊された。当会初代事務局長氏にお見せしたことあり）にお会いできないのが寂しい。(H・Y)

■今年初めて「まちげき」に参加した。もっともっと多くの人にこのイベントを知ってもらいたい。そして、まちに溢れている「エネルギー」をもっともっと共有したい。熱中するものがあるうちは、青春なのだと思う。(M･U)

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2012 年度法人賛助会員）

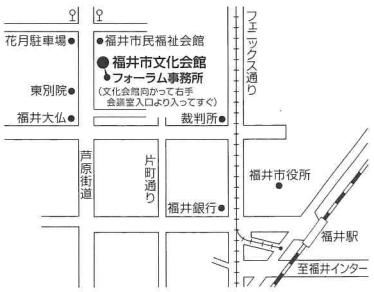
北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山 2-7-1　福井市文化会館内
TEL　0776-23-6905　FAX　0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝休
E-mail　geibun@geibun.info　◎公演・催し物の最新情報は web でチェック　http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望など、メールまたは FAX でフォーラムまでお気軽にお寄せください。



2013年３月20日発行（年４回発行）　通巻40号